

2016 年度第 2 回セミナー・議事録

1. 日時： 2016 年 5 月 31 日（火） 18：00～20：00
2. 場所： 富山県立大学環境工学科棟 I-333 地域協働支援室
3. 講師： 名古屋大学名誉教授 岩田好一朗 先生
4. 題目： 予防保全型維持管理について ―海岸保全施設の老朽化問題（その 2）―

5. 報告内容

(1)はじめに

社会資本の老朽化から国民を守ることが行政機関には求められている。

(2)海岸堤防・護岸の防護機能

堤防や護岸の設計波は 1/3 最大波（有義波）である。1/3 は不規則な波を均一なものともみなすための係数である。

(3)海岸保全施設の老朽化の見通し

海岸保全施設の約 33%はいつ施工されたものかわからない。（2010 年時点）つまりそれだけ築年数が古いということ。

海岸堤防の 1787km(48.2%)は補修が必要かどうかさえ把握できていない。

海岸保全施設の維持管理は主に都道府県が行っている。

(4)予防保全型維持管理

コンクリート自体の強度は時間が経過してもほぼ変わらないため、劣化している箇所（塩害を受けているなど）で評価する。

富山湾では人工リーフや養浜を設けている箇所があるが、その安全面に関しての評価法が確立されていないため十分な評価ができない。

(5)富山県の海岸点描

富山県は海岸線が 149km（全国で下から 3 番目）である。そのため十分に海岸を管理できるはずである。

(6)課題と展望

海岸保全施設の長寿命化のための LCM(Life Cycle Management)を確立する必要がある。

老朽化の進展を評価する数値計算手法の開発が求められている。